

「子どもにもあるメタボリックシンドローム、次世代のために今なすべきこと」

最近、肥満の子どもが増えたことがよく紹介されます。実は、この増え方を詳しく検証してみると恐ろしい事実が浮かび上がるのです。つまり、1970年に12歳だった子どもは、肥満している頻度は3%でした。そして、30年後の2000年に40歳代になった彼らは、その6〜7倍の約20〜25%が肥満成人になっています。

ところが、同じ2000年に12歳の子どもの肥満頻度はすでに10%に増加しているのです。このままの傾向が続けば、次の30年後、つまり30年には、40歳代の成人の肥満頻度は同様に6〜7倍の

小児のメタボと糖尿病、心血管病

12日・鳥取、琴浦「次世代のためなすべきこと」

60〜70%に達することになるのです。この数値は02年の米国の肥満頻度65%(BMI25)と同じなのです。

私たちがこのままの生活習慣を続けていては近い将来、日本でも現在の米国のように多くの人が糖尿病や心血管病で命を落とすことになります。それどころか、私たち東

洋人は白人に比べて、同程度の肥満でもより糖尿病になりやすい体質をもっているのです。将来の状況はさらにすさまじいものになります。

この4月にはとうとう、米国カリフォルニア州の一部地域で、ファストフードのキッズメニューに、おもちやなどのおまけをつけることが禁止されました。米国では、自らが大量生産してきたコーンシロップや砂糖を、最近では肥満発症へつながる「毒物」、あるいは際限ない過剰摂取につながる「麻薬」である

として規制すべきだとの論調が強くなってきました。米国はすでに立ち上がりました。私たち日本人も社会全体でこの問題

に取り組んでいかねばなりません。講演では平成19年に発表された小児のメタボ診断基準をもとに、次世代のために私たちができることを考えていきます。

花木 啓一（鳥取大学医学部教授）

◇サイエンス・アカデミーは12日（土）午前10時半から、鳥取県立図書館2階大研修室（鳥取市尚徳町）で。演題は「子どもにもあるメタボリックシンドローム〜次世代のために今なすべきこと〜」（講師・花木啓一教授）。琴浦町図書館（琴浦町徳万）で鳥取会場よりライブ中継。申し込み不要。問い合わせは電話番号0857（31）6777、7、鳥取大学産学・地域連携推進機構（社会貢献室）へ。